



談叢

道は道なり

道路改良會評議員
醫學博士

金杉英五郎

道路改良會設立せられてより最早十年に近いやうに記憶する、此間に於ける先覺者諸賢の努力は一通りでなく、少

許の經費を以て無限の調査を爲したのだから容易のことで
は無かつたらう、乍併幾多の調査したる事項がこれまでど
の位の程度に實行されたであらうかと云ふに遺憾ながら至
つて少いやうに思はれる、吾等は毎年一兩度開會せらるゝ

總會にて二三の経過を承るの外時々「道路の改良」なる雜誌を頂戴するのであるが、其の雜誌は慥かに道路の改良には頗る有益なるものである。人若しあれを第二一年第一號より第九年第三號の今日迄閱讀すれば内外に於ける道路改良の智識に於ては全く遺漏なきを期し得ると信ずる。其故に吾

人は深く想ふ、今や調査講究の時期に非ずして、實行の時期であり、補修の時期であると。百事調査せしのみにて實行せざれば何の用なく、實行するも補修せざれば何の用無し道路に於けるも亦同様にして、先づ能く調査を遂げて實行し、然る後は常に補修に意を用ひねばならぬ。如何に調査を盡して歐米に於けるが如き道路を造るも、補修に於て缺くる所あらんか、新式の道路も何等の用を爲すこと無きのみならず、寧ろ泥濘の道路を優れりとせねばならぬ場合少からずである。近年東京市の諸方面に新設せらるゝ鋪装道路を観るに「コンクリート」あり、「アスファルト」あり、木板あり、砂利あり、人造石ありて外見は歐米の道路と異なる所無けれども、其の構造の粗漏なること、始終補修を

爲さざること等、唯驚くの外は無い。如何に立派に造つた道路たりとも補修（掃除水撒き等）を怠るに於ては寧ろ田畑の如き道路のまゝの方が強き光線反射の無い丈けでも善いやうに思はれる。

二

余の所謂道路の補修とは往々發生する凹凸を修繕し、路面を掃除水撒きするを謂ふのである。

歐米到る所市街地に於ては少くも一週二回は路面の掃除を爲し、特に伯林、紐育等にては市の中央街は毎日午前一時より四時迄の間に拭き掃除をすること座敷の掃除をするのと少しも差別の無いことは普く世人の知らるゝ通りの次第である。鋪装道路はどうしても座敷と同じく一週二三回よく拭き掃除をせねばならぬ、何となれば動もすれば泥砂塵芥が堆積し易いからである、特に我國に於ては下駄を用ゆるものが尙相應に存在するので下駄へ多くの泥砂を附着して道路へ輸送するものであるからだ。又下駄なるものは

道路保存と云ふ意味より論ずるときは頗る不適當なものであつて一には塵砂泥土を擦り碎きて粉末と爲して撒布し、二には下駄の齒は路面に穿貫して道路を毀損すること少からざるものたるを知るのである。

三

申す迄も無く道路を作るには唯道幅の擴張計りが目的ではあるまい、それが堅固でなければなるまい、補修が行届かねばなるまい、其故に先づ其の地方に於ける一年中の氣象を知り、次に地質の關係を調査し、次に土質の種類を知り次にそれに適する材料を選ぶと云ふことが必要であつて、之を精査することなくして唯妄りに伯林、倫敦、紐育を標準として設計しては大間違である。我國の如きは雨量の多くして工事中にも困難であり、完成後にも破壊を來し易きことを豫知して工事にかけらねば飛んでも無い誤算が生ずるのみならず、氣候の關係をも能く考慮して冬はどうとか、夏はどうとか云ふことも能く知らねばならぬ。北米の各地

方にて夏期日射病眼病の著しく多くなつたのは最近廿年間「アスファルト」の道路が多くなつて其の反射の爲めだとも云はれて居ることも考へねばなるまい。鋪裝したる道路に補修を缺くことは従前の泥土の道路よりも不可なりと云ふことは、雨の時には泥土の散亂が多く、晴の時には紅塵を捲き掲ぐる事が甚しいからである。

道義の道も、行路の道も其の要素の完全を要することは同一である。道義は仁義禮智信が具備せねば完全では無い。道路は氣候、地質、土質、材料、構造、補修を能く考慮せねば害あつて益なきことになる。道路をして唯造り放しにして補修（掃除、水撒）を爲さず齎しく紅塵萬丈の發生場たらしむるならば多額の費用を投ぜんよりは従前の田畑同様なる泥路のまゝに置く方が賢いことである。一言以て道路研究者の深甚なる考慮を煩すこと如件。